

## 2016 アートマイル国際交流壁画共同制作プロジェクト 報告書

日本学校名 [ 大津市立志賀中学校 ] 担当教諭名 [ 堤 祥晃 ] (2年 180名 美術部1~2年 17名)

相手国・地域 [ ネパール ]

海外学校名 [ Shrawan Secondary School ] 担当教諭名 [ 橋村 清佳(JICA) ]

### ■実施教科・時間数について教えてください。

	教科	単元名	時間数
アートマイルに関連した 実施教科・時間数	美術部	国際交流壁画共同制作プロジェクト	50
	美術	ネパールに年賀状を贈ろう!	2
	英語	ネパールに年賀状を贈ろう!	1

### ■作品に込めた想いについて教えてください。

題 (テーマ)	平和な世界をつくるために
メッセージ (相手と一緒に 絵に込めた想い)	Which future does our decision lead to? What can we do? 私たちの決断が導く未来は(平和な未来か戦争の未来か)どちら? 私たちに何ができる?



### ■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか?

成 果	課 題
今回は平和というテーマで深く学ぶことができ、子どもたちにとって、自身と社会の関わりについて意識を高めることができた。また、作品制作の他に、ハロウィンカードなどメッセージカードのやり取りも行い、共同学習、共同制作を通して、海外との交流を楽しむことができ、異文化理解にもつながった。	今回は、内容を充実させることを優先したため、翻訳作業を教師が行うことも多く、英語でのコミュニケーション力を高めることはあまりできなかった。また、お互いに学校行事や長期休業等で活動が制限され、スケジュール通りに進めることができなかった。やりきれずに積み残した内容もあり、残念である。

### ■アートマイルに取り組む前と比べて相手の国・地域や世界に対して意識はどう変わりましたか?

児童生徒の意識の変化	教師の意識の変化
当初、ネパールがどこにある国か分かっていないような状況だったが、交流を通して近い存在になったようだ。中学生が普通にピアスをしているなど、文化の違いに驚いていた。また、中学生男子の憧れの職業がインドの外人部隊の兵隊というのも衝撃を受けていた。自分たちはとても恵まれているということに気が付いたようだ。	今回は様々な工夫をして交流したのだが、生徒の意識が変わったり、成長していたりする姿を見て、この取り組みの奥の深さと可能性について実感することができた。また、機会があれば中学生でもかなり深く学ぶことができるということに気づき、怖がらずに色々なことにチャレンジさせることが大切だと感じた。

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科等
出会い 自己紹介	9月	英語で自己紹介を考え、撮影した自分の写真とともにフォーラムにアップする。その際、1対1のペアを作り、相互に継続して交流する。	撮影、翻訳など楽しみながら取り組んでいた。各自が英文を英語科の教員にチェックしてもらった。ペアで交流することで親近感が湧き、相手を意識したやりとりになっていた。	美術部12
共有 テーマ学習	10月 11月	双方の国で「平和な世界をつくるために」というテーマで学習し、その内容を交流する。「憲法9条」改正の是非をグループで議論する。	普段あまり考えないテーマなので、最初は困った様子であったが、ネパールの取り組みに触発されて色々考えを巡らせていた。憲法改正についても、中学生なりに深く考えることができた。	美術部8
融合 メッセージ 壁画デザイン	11月 12月	テーマ学習の成果をもとに、壁画に描く内容や壁画に書くメッセージを話し合う。構図や配色を考え、原画を描く。	何回もネパールとやりとりする中で、徐々に作品のイメージが具体的になっていった。メッセージを伝えるためにどの様に描けばよいかについて、時間をかけてしっかり考えることができた。	美術部8
創造 壁画制作	12月	話し合っって少し修正を加えた後、原画をプロジェクターで拡大して描き、分担して着色する。 2年生全員がネパールへ年賀状を書く	選ばれた原案を元に、みんなが意見を出し合っってデザインを修正していた。拡大して描く、塗る作業では分担しながら協力し、楽しみながら丁寧に取り組むことができた。	美術部20 美術2 英語1
評価 振り返り 自己評価	3月	全員で完成した作品を囲んで鑑賞会を行う。 全校集会で完成作品を紹介する。	双方の絵がきれいにつながったことに、とても満足している様子であった。ネパールと日本の描き方や内容の違いにも目を向けて鑑賞していた。	美術部2

■学習目標(つけたい力)と成果(ついた力)について教えてください。

「目標」先生が指導に当たって重視したことをABCで記入 (A:特に重視した B:重視した C:特に重視しなかった)

「成果」先生の手応え (5:とても身についた 4:身についた 3:どちらともいえない 2:あまり身につかなかった 1:身につかなかった)

学習目標・つけたい力	目標	成果	成果についてそう感じた場面・理由
自文化の理解	B	3	交流相手に日本の文化や風習を紹介したり、自国側の壁画を描く際に、自国の文化や風土を表す内容を考えたりしていた。
異文化の理解	A	4	ネパールに興味関心を持ち、食文化、ファッション、スポーツ、自然について熱心に調べたり、相手に質問したりしていた。
コミュニケーション力 (説明・共感・英語)	B	2	相手に日本人スタッフがおり、時間の都合上日本語で交流したり、教員が翻訳したりしてしまい、生徒の活動が不十分だった。
情報活用能力 (情報収集・発信)	C	3	時間的に厳しいこともあってインターネットに偏ってしまい、じっくり調べることができなかった。掲示物を作って校内に発信した。
人間関係をつくる (学級内・海外の相手)	A	5	ペアを作って交流したことで、かなり密度の濃い交流ができた。お菓子やカードをプレゼントし合ったりでき、楽しく取り組めた。
協働する力 (役割分担・協力)	B	4	協働学習や壁画の制作、校内展示物の製作では、役割分担をして、それぞれが自分の役割をしっかり果たすことができた。
学習を追究する意欲	A	5	「平和な世界をつくるために」「憲法9条」など、難しいテーマに取り組み、平和について深く考えることができた。
表現力 (伝えたいことを言葉・絵で表す)	A	5	戦争の悲惨さと平和の尊さを表現するために、配色や構図、描く内容を対比させながら工夫して描いていた。
評価する力 (作品の鑑賞・学習の自己評価)	B	4	相手国が、テーマを十分共有して色彩や描く内容を合わせてくれたことなどを読み取りながら作品を鑑賞できた。